

材木町 “よ市” の再計画 Re-planning of "Yoichi" in Zaimoku town

佐藤信治¹, ○古川穂奈実²
Shinji Sato¹, * Honami Furukawa²

In recent years, many shopping districts have lost their vitality as the environment surrounding local commerce has changed dramatically due to lifestyle changes and the opening of suburban commercial facilities.

In Zaimoku Town, Morioka City, Iwate Prefecture, the city is held every Saturday from April to November, and a 430-meter pedestrian paradise street market is held. However, Zaimoku Town is also the center of Morioka City, but people are flocking to large stores in the suburbs.

This proposal plans a shopping district to reconstruct the shopping district of Timber Town by planning business outside of Yoiti throughout the year.

1. はじめに

近年,ライフスタイルの変化,郊外型商業施設の出現などにより,地域商業を巡る環境が大きく変わる中で,活力を失いつつある商店街も少なくはない.^[1]

その中で,岩手県盛岡市材木町では,4月から11月の毎週土曜日によ市が開かれ,430mの歩行者天国のストリートマーケットが開催されている.しかし,材木町も同様に盛岡市の中心地でありながらも,郊外の大規模店舗に人が集中してしまっている.^[2]その結果,よ市が開催されていない日は活力が少なく,材木町のビジネスはよ市に偏ってしまっている傾向がある.

本提案は,年間を通したよ市以外のビジネスを計画することで,材木町の商店街の再建を計る商店街を計画する.

2. 計画背景

2.1 失われる活力

近年,盛岡市内の都市計画や道路整備が進むことにより,郊外の大規模店舗に車で外出するスタイルが主流となったことで,材木町周辺の活力が失われつつある.^[2]

2.2 失われる活力から生まれた“よ市”

材木町の活力が失われていることを悪念し,材木町商店街振興組合青年部が中心となって「市」の開催を提案.しかし,よ市が開催されている期間は4月から11月の毎週土曜日と限られており,開催されていない日,月は開催されている日と比較すると来客が少なくなってしまう.^[2]

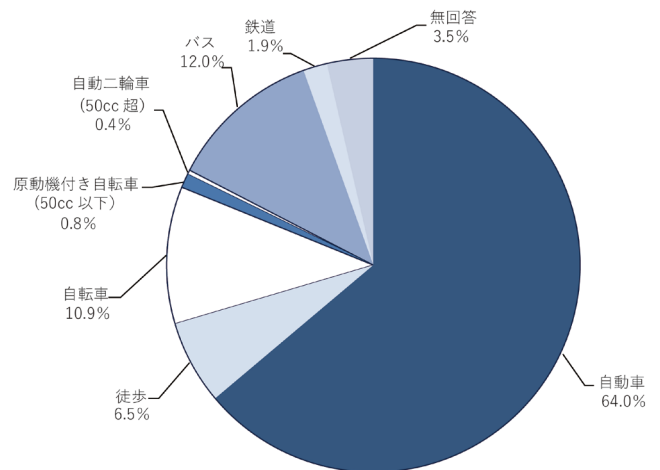


Figure1. Transportation in Morioka City^[3]



Figure2. Non-hosting day

3. 計画敷地

岩手県盛岡市材木町に位置する商店街を計画敷地とする.この商店街は,盛岡駅から徒歩10分,近隣には北上川が流れている.

1 : 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of science and Technology, Nihon University
2 : 日大理工・学生・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of science and Technology, Nihon University



Figure3. Planned site "Zaimoku-town"^[4]

4. 計画敷地の歴史

4.1 北上川の歴史

明治の中頃,東北本線が開通するまで,北上川は荷物や人を運搬するとても大切な交通路の役割を担っていた。しかし,今日では鉄道や自動車などの陸上交通の発達によって,かつて舟運が行われていた。^[5]



Figure4. The old city of Morioka^[6]

5. 基本方針と計画

5.1 都市型農業の導入

よ市に来る人の目的として“新鮮な野菜”を求めて訪れている。新鮮な野菜を都市型農業で身近に栽培,提供を計る。同時にかつて行われた舟運を用いて新たなビジネスを提供する施設を計画する。

5.2 冬季を利用したビジネスの提案

よ市は冬季の期間開催されていない。そこで,盛岡市の冬季の寒さを活かした“雪室”を計画の一部として使い,年間を通したビジネスを生む。

6. 導入施設

都市型農業,雪室を利用した施設を導入する。

- 1) 栽培所
- 2) レストラン,カフェ
- 3) 雪室
- 4) 収穫倉庫
- 5) 舟運観光

6.1 栽培所

都市型農業を行うため,空き地,空き家,地下などに栽培所を設け,野菜や果物の栽培を計画する。

6.2 レストラン,カフェ

栽培で来た新鮮な野菜や果物を調理して提供する。他にも,舟運を用いて運ばれてきた食材たちを利用したり,周辺地域に舟運を通して提供する。

6.3 雪室

一年を通してのビジネスを計画するため,野菜や果物を収穫するだけでなく,冬季の寒さを利用した保存方法を用いて,冬まで集客する計画を行う。そこで,雪国に伝わる食材の保管方法の一つである“雪室”を用いるために,建築的に雪を集める計画を行う。

6.4 収穫倉庫

採れた野菜,果物を保管する。

6.5 舟運観光

現在盛岡市では“北上川フェスタ 北上川に舟っこを運航する盛岡の会”^[7]が開かれている。かつて行われた舟運を用いて,材木町に人を集客するために,船着き場を築き,アクセスの選択肢を広げる場所を設ける。

7. 参考文献

[1] 事例から学ぶ!「商店街を、もっと元気に」-ミラサポ Plus

<https://mirasapo-plus.go.jp/hint/17442/>

[2]岩手県内の「“市”の開催事例」に関する調査研究報告書

https://www.j-smeca.jp/attach/kenkyu/shibu/h22/h_iwate.pdf

[3] 第22回市民意識調査:調査結果と考察「交通手段について」

<https://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/1021559/1021609/shikichosa/1021939/1022006.html>

[4]Googleearth

<https://www.google.com/intl/ja/earth/about/>

[5]北上川情報/北上川の歴史-舟運の歴史[あいぼ一と]

https://www.thr.mlit.go.jp/isawa/sasala/vol_25/vol25_2f.htm

[6]盛岡市の歴史

<https://www.city.morioka.iwate.jp/kankou/kankou/1037106/1009334.html>

[7]「第7回北上川フェスタ IN MORIOKA」|もりおか町家物語館

<https://machiya.iwate-arts.jp/archives/event/event-8798>